

令和7年度 基本施策評価シート

基本施策	G2	だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくります	
2025年度にめざす姿	対象		意 図
	市民が		自ら学ぶとともに、学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている。
第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ			200ページ
基本施策主管課名	生涯学習企画課	関係課名	生涯学習施設課、都市経営室、官民連携推進室

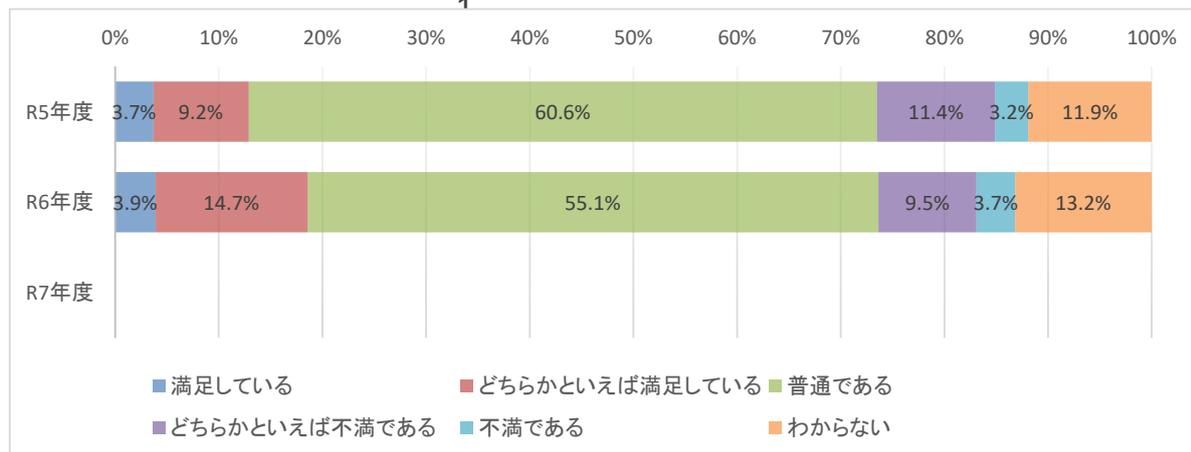
基本施策の総合評価

総括	<ul style="list-style-type: none"> ●基本施策の成果指標である「学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている市民の割合」は35.3%で、目標値(令和7年度)である40.0%を下回っているものの、基準値である33.9%(令和元年度)からは、向上している。 ●個別施策の成果指標である「地域の学習活動への支援者数」は、8,387人(令和6年度実績)で、目標値(令和7年度)である8,058人を上回っている。 ●市民満足度については、「満足している」及び「どちらかといえば満足している」と回答した人の割合が、18.6%で、昨年度の12.9%から5.7ポイント増加した。 <p>以上を踏まえ、今後の主な取組みは次のとおりとする。</p>
G2-1	<ul style="list-style-type: none"> ●公民館講座については、オンライン講座や主に高齢者を対象としたスマホ講座など、公民館に課せられている現代的課題の解決に資する講座の継続に努める。また、親子での参加、就労世代や若い世代のニーズに沿うような講座の企画、SNSを活用した周知などに取り組むほか、土日や夜間に開設する講座の実施に力を入れて取り組むことなどにより、新たな受講者確保につながるよう努める。 ●図書館では、子どもの読書活動を推進するとともに、各種事業やイベントを実施することで、市民の読書活動の推進と、電子図書館の周知及びコンテンツの充実に取り組む。 ●恐竜博物館では、魅力的な企画展やワークショップの開催、常設展示の定期的なリニューアルにより内容を充実させ、常に新鮮な学びの場を提供できるように努める。 ●U-サポの取組みについては、事業受託先であるやってみゅーでスクと連携し、大学生やボランティア募集の可能性がある団体への周知を強化することで参加実人数の増を図り、多くの学生が参加する機会を増やしていく。 ●新たな企画の展開に向けて、様々な団体との交流の推進や、さらなるメンバーの追加などによる組織体制の活性化、行政・地域が抱える課題の共有などの支援を行う。
G2-2	<ul style="list-style-type: none"> ●公民館ボランティアの活動について知ってもらい、若い世代を含めた新たな参加者が増えるような取組みを実施する。 ●図書ボランティアの活動は、引き続きボランティアとの協働体制を構築し、ボランティアの需要と供給のマッチングに努める。 ●ファミリープログラムのファシリテーターについては、引き続き認定研修会を開催するなど、登録者の裾野を広げるとともに、就労世代のファシリテーターも活動しやすいように、昼間の学校での開催だけでなく、土日や夜間に行う地域での開催を増やしていく。

二次評価(施策評価会議による評価)

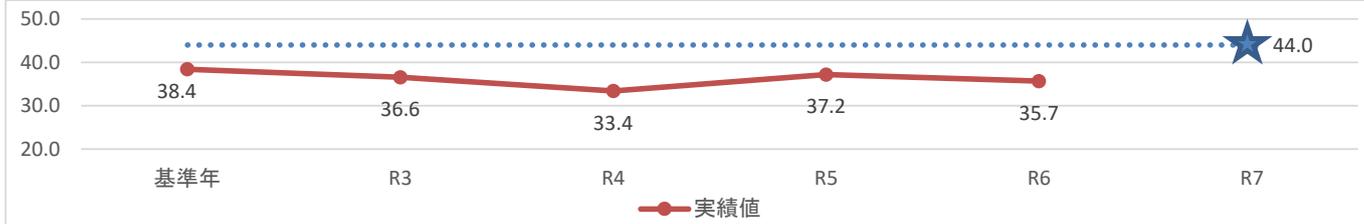
●	【G2-1】 ①「公民館講座等の講座の充実」については、若い世代など新たな受講者を引き寄せる講座となるよう、ニーズの把握と講座内容の検討に取り組むこと。
●	【G2-1】 ②「学生・若者への体験活動支援」の若者の活動支援については、現在の取組みを分析し、新たな企画を出していくための手法を検討すること

基本施策に対する市民満足度調査結果

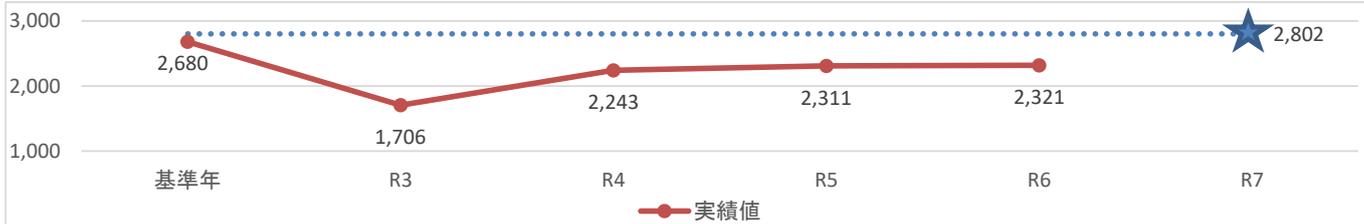


成果指標

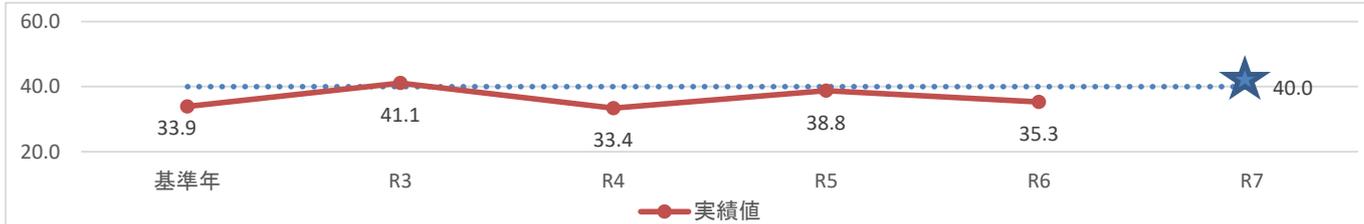
指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値 からの 傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
自発的に学びに取り組んでいる市民の割合	38.4% (R元年度)	44.0% (R7年度)	36.6	33.4	37.2	35.7	-	▲



指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値 からの 傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
生涯学習施設等の利用者数	2,680千人 (H28~H30年度の 平均)	2,802千人 (R7年度)	1,706	2,243	2,311	2,321	-	▲



指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値 からの 傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている市民の割合	33.9% (R元年度)	40.0% (R7年度)	41.1	33.4	38.8	35.3	-	▲



年度別 主な取組内容

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
<ul style="list-style-type: none"> ・公民館をはじめとする生涯学習施設等で行う講座や教室の参加者数の増加(58,501人) ・図書館で、市民の読書活動を推進するための「おはなし会」などの事業取組みによる来館者数の増加(647,544人) ・U-サポの取組みによる学生登録者数などの増加(学生登録者数:3,295人、応援団体登録数:333団体、ボランティア延べ参加数:4,376人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館をはじめとする生涯学習施設等で行う講座や教室の参加者数の増加(66,398人) ・図書館で、市民の読書活動を推進するための「おはなし会」などの事業取組みによる来館者数の増加(671,521人) ・U-サポの取組みによるボランティア延べ参加数の増加(5,361人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館をはじめとする生涯学習施設等で行う講座や教室の参加者数の増加(68,653人) ・恐竜博物館で、施設見学に際して、学習ポイントを押さえた映像教材やワークシートを新たに作成し、学習活動の充実を図った。 ・U-サポの取組みによるボランティア延べ参加数の増加(5,433人) 	

令和7年度 個別施策評価シート・まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

個別施策	G2-1	学びの場と機会の充実を図ります
2025年度に めざす姿	対象	意 図
	市民が	様々な場所で集い、交流するとともに、ライフステージに応じた学習プログラムや現代的課題・地域課題などを学んでいる。
個別施策主管課名	生涯学習企画課	

まち・ひと・しごと創生総合戦略

目標／具体的施策	
基1・(3)	経済を強くし、新しいひとの流れをつくる／学び、暮らし、楽しむ魅力を高める
基2・(2)	子どもをみんなで育てる 子育てしやすいまちをつくる／子育ての環境を充実する
基3・(1)	「まちの形」と「まちを支えるしくみ」をつくる／地域の力でまちづくりを進める

成果

① 市民の学習機会の充実

●公民館では、デジタル機器に不慣れな高齢者を対象に、基本的なスマートフォンの操作を学ぶ講座を継続して実施し、前年度と同等の参加者数であった(R5 20回、218人 → R6 22回、262人)。また、初めての試みとして、市民が受けたい教育を受ける機会の均等をはかることを目的とし、中央公民館及び恐竜博物館で実施する講座を遠隔地の公民館で受講できるオンライン講座を2回実施した(11公民館で77名が受講)。これにより、居住地の近くの公民館では実施していない講座を受講しやすくなり、教育を受ける機会を増やすことにつながった。

●市立図書館では、子どもの豊かな感性や心を育み、生涯にわたる読書習慣につなげるとともに、市民の読書活動を推進するため、「おはなし会」、「図書館を使った調べる学習コンクール」など各種事業に取り組んだが、来館者数(R5 671,521人→R6 663,140人)は前年度より減少し、貸出者数(R5 330,384人→R6 330,862人)は前年度から横ばいであった。また、幅広い層の市民に読書に親しんでもらうため、電子図書館の広報に努めたことにより、電子図書館の閲覧・貸出数(R5 30,229件→R6 32,255件)が、前年度より増加した。これにより、来館することが難しい市民への読書推進につながった。

★恐竜博物館では、恐竜を中心とする古生物学や地学への興味関心を高めるため、常設展のほか企画展を年2回(春季・夏季)開催したが、来館者数(R5 171,608人→R6 129,671人)は前年度より減少した。一方、来館者の学習機会の提供に寄与するため、体験型のワークショップを1日2回開催し、参加者数(R5 4,693人→R6 4,786人)は前年度より増加した。ワークショップ参加者に対するアンケートでは、「とても満足」「満足」との回答が96.7%あった。また、施設見学に際して、学習ポイントを押さえた映像教材やワークシートを新たに作成し、学習活動の充実を図った。

関連する総合戦略施策 基2・(2) 基3・(1)

●科学館では、直接現地へ出掛けて科学実験や工作教室を行い、科学に関する興味・関心を高める出前サイエンス教室や、自ら考えたものの作成をおとして科学的な考え方を助長する発明クラブ、野外観察教室などの各種事業を行ったことにより、来館者数(R5 140,144人→R6 148,303人)は増加し、科学に関する学びの促進につながった。

●日吉自然の家では、キャンプやものづくりなど自然に親しむ体験学習の場を提供しており、利用者数(R5 27,751人→R6 30,100人)は前年度より増加し、市民の生涯学習の振興に寄与した。また、森の整備や、SDGsに加えESDの取り組みにも着手しており、イベントの目的を明確にしたうえで、質の高い体験活動を実施することで、学びの場としての環境整備の促進につながった。

② 学生・若者への体験活動支援

★学生の自主的な社会参加活動を通じて、学生の人的成長と地域の活性化を図るため、ボランティア活動について学生と地域のマッチングを行うU-サポの取組みと併せて令和6年度に開業した長崎スタジアムシティと連携した取組みを行い、学生の体験学習の充実を図ったことで、ボランティア延べ参加数が増加し、令和6年度実績が基準値である令和元年度実績を超え(R元 5,431人→R6 5,433人)、過去最高となった。

関連する総合戦略施策 基1・(3)

★若者が実現したいアイデアや企画にチャレンジできる場としての「ながさき若者会議」を自立的に運営することを目指した「ながさき若者会議運営プロジェクト(R4年7月設立)」を伴走支援することにより、継続的に若者がチャレンジできる場が確保されている。

関連する総合戦略施策 基1・(3)

問題点とその要因

① 市民の学習機会の充実

●公民館では、新たな受講者を取り込むような講座の企画や周知方法が不足しており、各公民館の講座では、参加者が固定化している。

●図書館では、各種事業に取り組んでいるものの、県庁や市役所の移転による人の流れの変化の影響もあり、利用は減少しており、新型コロナウイルス感染症流行以前の水準に回復していない。また、電子図書館については、紙の書籍と比べると、図書館貸出用コンテンツ数が少ないことから、利用者の読みたいコンテンツを揃えられていない。

★恐竜博物館は、多数の恐竜化石が発見されている現場である野母崎地区に設置することで、よりリアルな学習機会を来館者に提供しており、展示内容も充実していることから、その満足度は87.7%と高いが、オープニング効果が薄れたことや広報周知が不足していることから、来館者数が減少している。

関連する総合戦略施策

基2・(2)

基3・(1)

② 学生・若者への体験活動支援

★U-サポの取組みについては、長崎大学以外の大学はボランティア支援の専任スタッフがいらないこと、また大学のカリキュラム上ボランティア参加が困難であることなどから、ボランティア延べ参加数はコロナ禍以前の水準に回復したものの、参加実人数は回復に至っておらず(R元 1,188人→R6 961人)、ボランティアに参加する機会が学生に広がっていない。

手法

基1・(3)

★新たなメンバーの加入や他地域の同種団体との交流など、活動の幅は広がっているものの、新たな企画のヒントとなる社会のニーズや課題を学ぶ機会が十分でないため、若者会議内における新たな企画・チャレンジの展開には繋がっていない。

関連する総合戦略施策

基1・(3)

今後の取組方針

① 市民の学習機会の充実

継続 ●公民館講座については、オンライン講座や主に高齢者を対象としたスマホ講座など、公民館に課せられている現代的課題の解決に資する講座の継続に努める。また、親子での参加、就労世代や若い世代のニーズに沿うような講座の企画、SNSを活用した周知などに取り組むほか、土日や夜間に開設する講座の実施に力を入れて取り組むことなどにより、新たな受講者確保につながるよう努める。

継続 ●図書館では、第三次長崎市子ども読書活動推進計画に基づき、関係課、関係機関と連携し、子どもの読書活動を推進するとともに、各種事業やイベントを実施することで、市民の読書活動の推進と、電子図書館の周知及びコンテンツの充実に取り組む。

継続 ★恐竜博物館では、魅力的な企画展やワークショップの開催、常設展示の定期的なりニューアルにより内容を充実させ、常に新鮮な学びの場を提供できるように努めるとともに、広報周知を充実させ、来館意欲を喚起する。

関連する総合戦略施策

基2・(2)

基3・(1)

継続 ●科学館では、実際に見て、触れながら行う科学実験、工作及び出前教室等など、対面で行う事業に軸足を置きつつ、年に3回程度行う特別展示や、科学館で実施する講座等を、市内企業や大学等と連携することで企画内容の充実を図る。また、引き続き、科学館運営協議会等の意見を聞きながら、科学の不思議さをより学べるように事業内容を充実させる。

継続 ●日吉自然の家では、引き続き、市立小学校5年生の宿泊体験学習の受け入れをはじめとする自然に親しむ体験学習の場を提供し、市民の生涯学習の振興に努める。

② 学生・若者への体験活動支援

継続 ★U-サポの取組みについては、事業受託先であるやってみゅーでスクと連携し、大学生やボランティア募集の可能性のある団体への周知を強化することで参加実人数の増を図り、多くの学生が参加する機会を増やしていく。

関連する総合戦略施策

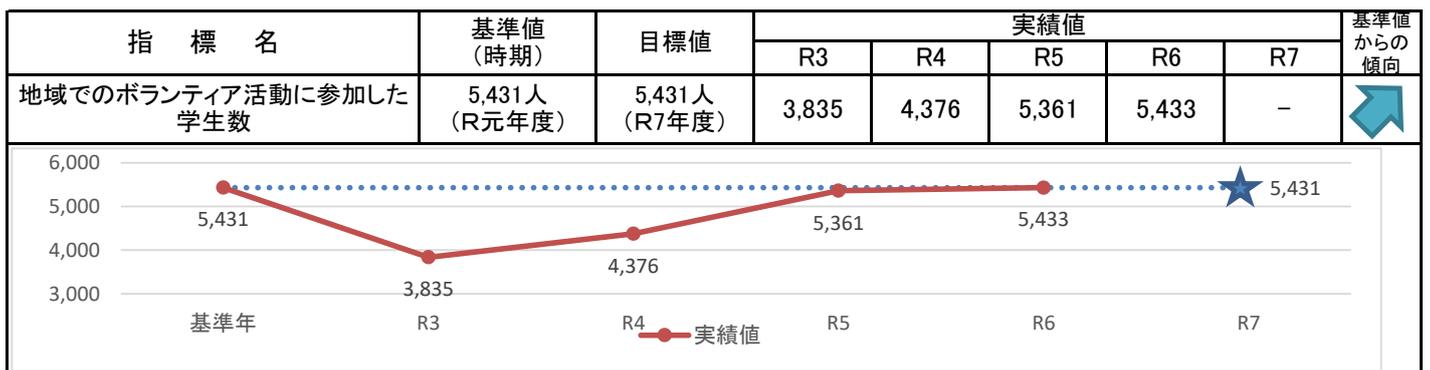
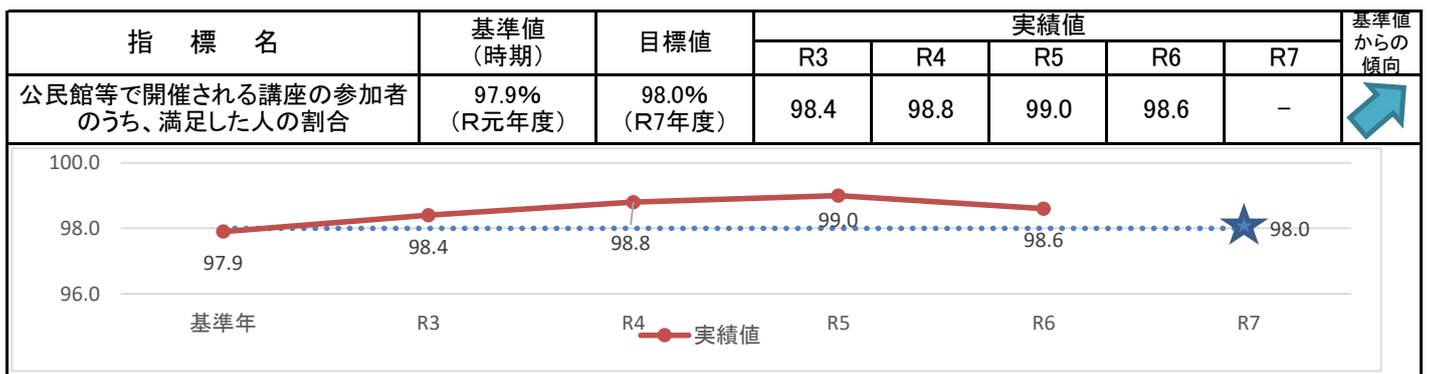
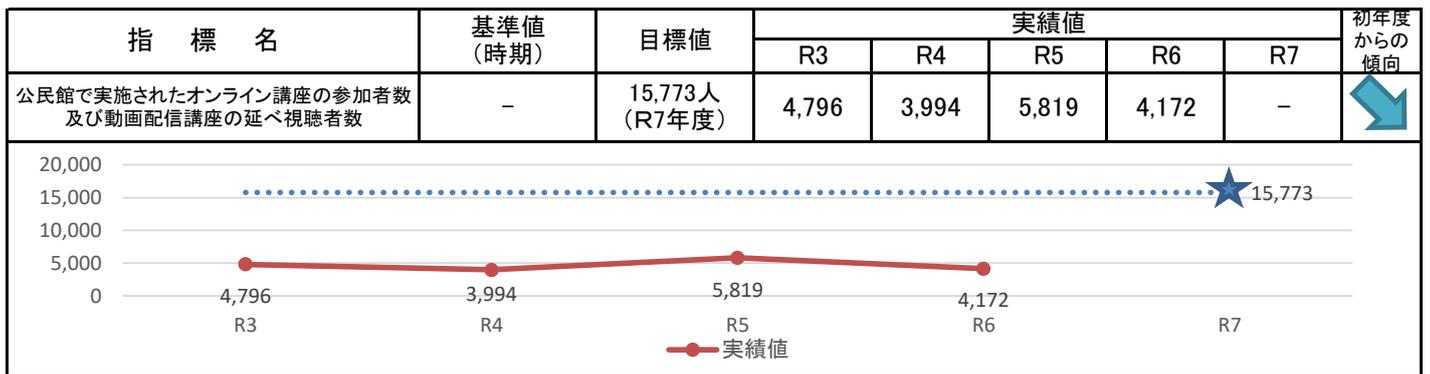
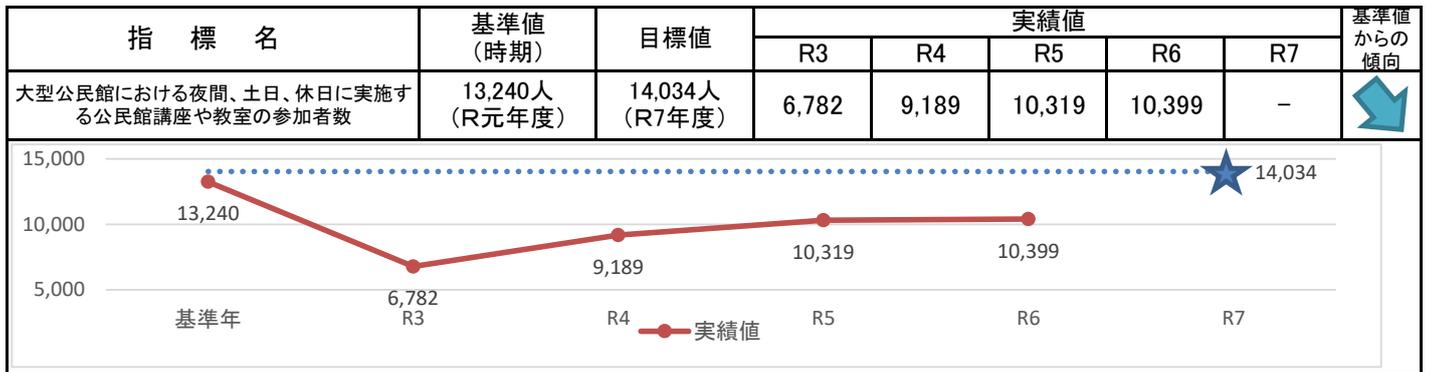
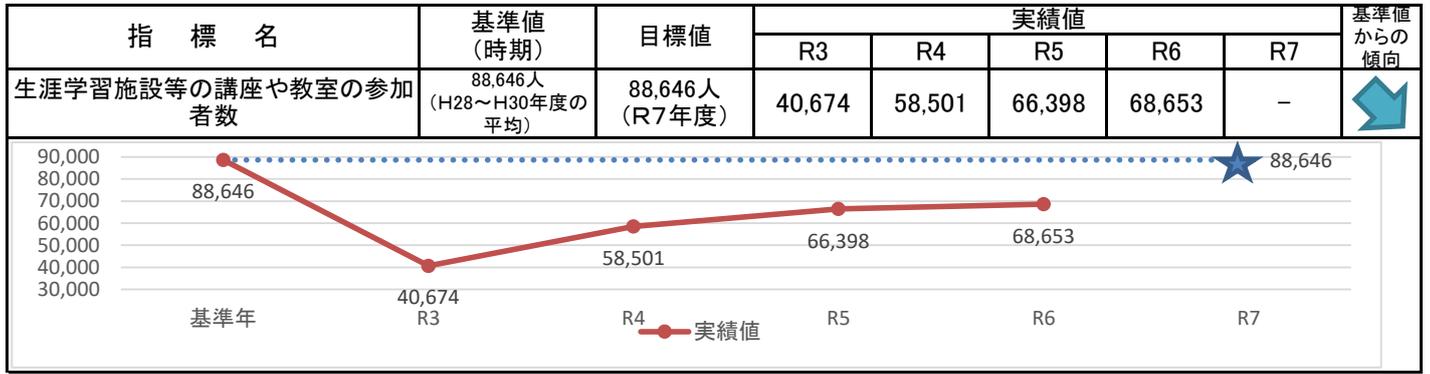
基1・(3)

継続 ★新たな企画の展開に向けて、様々な団体との交流の推進や、さらなるメンバーの追加などによる組織体制の活性化、行政・地域が抱える課題の共有などの支援を行う。

関連する総合戦略施策

基1・(3)

成果指標



施策を推進する主な事業

	事業名 担当課	図書館を使った調べる学習コンクール事業	生涯学習施設課
	成果指標	応募点数	 <p>【表彰式】</p>
	目標値	100点	
	実績値	42点	
	達成率	42%	
	成果指標・ 目標値の説明	より多くの児童生徒等が、図書館にある豊富な資料等を活用して、自ら興味を持ったことを調べ、作品にまとめ上げることは、学びの意欲の向上や今後の図書館の利用の促進、ひいては読書活動の推進につながることから、応募点数を成果指標とした。 過去5年間(令和元年度から5年度)の平均を基に設定した。	
1	事業目的	図書館にある豊富な資料をはじめ、様々な情報を活用した調べる学習を通じて、児童・生徒等が自ら考え、判断し、表現する力をはぐくむとともに、その活動において、公共図書館、学校図書館等を利用し、調べ物の楽しさを体験することにより、図書館の役割を認識し、今後の図書館の利用促進、ひいては読書活動の推進につなげていく。	
	事業概要	図書館等を利用し、調べ物学習を行い、その結果をレポートとして作成し、1つの作品として応募されたものについて、審査を行い、優秀作品を表彰する。	
	取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・応募点数 42点 (内訳) 小学生低学年:12点 小学生中学年:12点 小学生高学年:10点 中学生:8点 (高校生:0点) (一般:0点) ・全国コンクールへ2点の作品を推薦したところ、2点が佳作を受賞した。 ・コンクールの周知と応募者の増加を図るため、小学生を対象とした「調べる学習たいけん教室」を実施。2回、参加者25人。 	
		決算(見込)額	46,914 円

令和7年度 個別施策評価シート・まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

個別施策	G2-2	能力や経験が社会に活かされる仕組みをつくります	
2025年度にめざす姿	対 象		意 図
	市民が		学びを通して習得した能力や経験を、地域の学習活動等に活かしている。
個別施策主管課名	生涯学習企画課		

成果

① 学習活動ボランティアへの活動機会の提供

- 公民館支援ボランティアの活動により、講座のスムーズな運営ができた。特に屋外活動においては、講師や公民館職員だけでは目が届かないところにボランティアを配置したことにより受講者の安全確認等がしやすくなり、受講者に安心して講座を受講してもらうことにつながった。
(参加者数(R5 509人→R6 470人)は減少したが、活動回数(R5 213回→R6 222回)は増加した。)
- 市立図書館を生涯学習の拠点として充実させるため、図書館ボランティアに対し、市立図書館での配架や図書の装備、イベントサポーター等の活動や、学校図書館等での読み聞かせ活動の機会を提供したことにより、延べ472回、2,193人の参加があり、参加者の能力を活かすことにつながった。
- 家庭教育の事業として取り組んでいる「ファミリープログラム(学校や学級単位で保護者同士が子育てや生活習慣などについて相互に学び合う講座)」の進行役として活動する「ファシリテーター」の養成とスキルを磨くため、県との共催で「ながさきファミリープログラム」ファシリテーター認定・フォローアップ研修を実施したことにより、新たに4人のファシリテーターが登録され、「ファミリープログラム」を継続して実施(R5 55回→R6 53回)することができた。これにより様々な日時や規模の依頼に対しても、より対応がしやすくなった。

問題点とその要因

① 学習活動ボランティアへの活動機会の提供

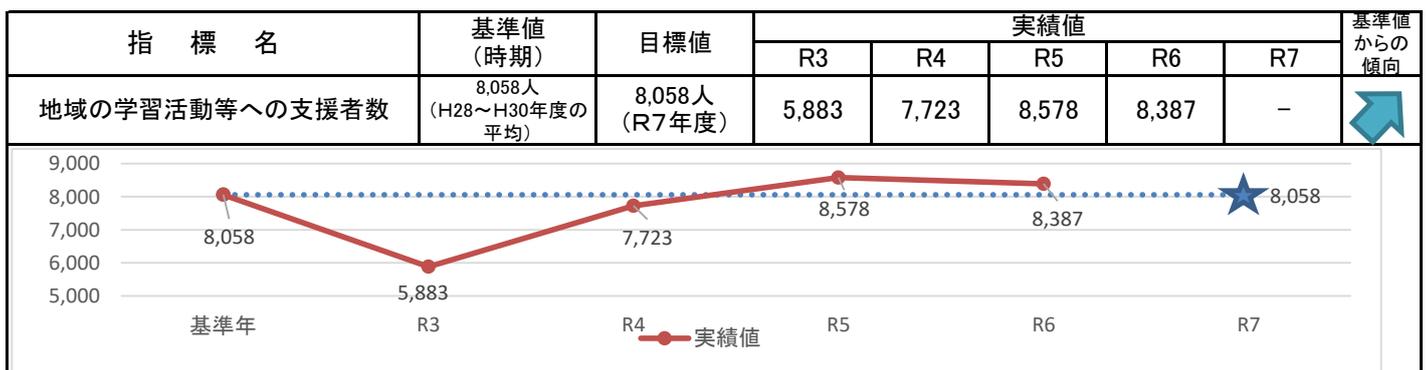
- 公民館ボランティアの活動は、参加者が固定化、高齢化しており、昨年度と比較し縮小している。
- 図書ボランティアの活動は、参加者数は新型コロナウイルス感染症流行以前の状況に回復してきているものの、出張おはなし会等の読み聞かせボランティアに関しては、幼稚園等の受入れ施設側に慎重な傾向があり、活動機会がコロナ禍前の7割程度に留まっている。
- 「ファミリープログラム」は、学校や学級単位で行うため、平日昼間の開催となり、昼間に対応できるファシリテーターへの負担が増えている。
また、PTA活動や学校行事の整理などの影響で実施数を増やすことが難しくなっている。

今後の取組方針

① 学習活動ボランティアへの活動機会の提供

- 継続 ● 公民館ボランティアの募集について各講座で周知を行うなど、公民館ボランティアの活動について知ってもらい、若い世代を含めた新たなボランティアが増えるような取り組みを実施する。
- 継続 ● 図書ボランティアの活動は、新型コロナウイルス感染症流行以前の状況に回復してきているので、引き続きボランティアとの協働体制を構築し、ボランティアの需要と供給のマッチングに努める。また、読み聞かせボランティアの活動機会である出張おはなし会への申し込みが増えるように、出張おはなし会の周知に努める。
- 継続 ● ファミリープログラムのファシリテーターについては、引き続き認定研修会を開催するなど、登録者の裾野を広げるとともに、就労世代のファシリテーターも活動しやすいように、昼間の学校での開催だけでなく、土日や夜間に行う地域での開催を増やしていく。

成果指標



施策を推進する主な事業

	事業名 担当課	図書ボランティアの活用	生涯学習施設課
	成果指標	図書ボランティア参加者数	 <p>【出張おはなし会】</p>
	目標値	2,054人	
	実績値	2,193人	
	達成率	106.77%	
	成果指標・ 目標値の説明	ボランティアに参加することは、地域社会の中で自らの能力や経験を活かすことにつながることから、図書館ボランティア参加者数を成果指標とした。 新型コロナウイルス感染症流行以前の状況に回復することを目指し、令和元年度の参加者数である2,054人を目標値とした。	
1	事業目的	ボランティア活動を通じて、地域社会へ貢献しようとする市民とともに、よりよい図書環境をつくるため、市民と図書館との協働体制を構築する。	
	事業概要	ボランティアに登録した人たちが次の活動を行う。 ・配架 ・図書の装備(図書をビニールのフィルムでカバーしたり、バーコードなどを貼ったりすること) ・学校等での読み聞かせ等	
	取組実績	図書館のボランティアとして登録した人たちが、図書の装備や読み聞かせ等の活動を行い、図書環境の整備に寄与した。 ・配架 1,178人(280回) ・装備 754人(112回) ・読み聞かせ 100人(28回) ・イベントサポート 121人(26回) ・YA(学生)ボランティア 40人(26回)	
		決算(見込)額	0 円